



X E A M

取扱説明書・保証書・点検記録簿



notte v2

Ver.06

2019年10月発行

(当製品の取扱説明書の最新版は弊社のHPでダウンロードしてご確認ください。)

もくじ

	ページ数
はじめに	1
安全運転のために	2
各部の取り扱いと操作.....	7
バッテリーに関して.....	14
バイクを始動する前に(乗車前の点検).....	16
バイクを降車する際に.....	17
電動バイクメンテナンスについて	18
トラブルシューティング	19

お願い

- 操作前に本マニュアルにおけるすべての遵守事項を読んで理解してください。本マニュアルの指示に従わなかった場合、傷害、財産損傷のおそれ、または保証が無効になる場合があります。
- 安全運転および交通ルールをしっかりと守って、ほかの人も安全に通行できるように配慮してください。
- バイクに乗る時は、PSCまたはSG、JISマークのある二輪車用ヘルメットを必ず装着してください。




はじめに

XEAM notteをお買い上げいただきありがとうございます。

本マニュアルでは、XEAM notteの正しい取り扱い方法や安全運転のしかたなどについて説明しています。

万一、取り扱いを誤ると、重大な事故やケガ、トラブルの原因となります。運転される前に必ず本マニュアルをお読みください。

本マニュアルでは、正しい取り扱いに関する重要事項を下記のシンボルマークで表示しています。

 警告	この指示に従わなかった場合、死亡、重傷、傷害に至るおそれがあります。
 注意	この指示に従わなかった場合、機器が破損するおそれがあります。
 ポイント	正しい操作方法などのポイントを紹介しています。

本マニュアルをよく読んで理解してください。

本マニュアルは、いつでも参照できるよう大切に保管しておいてください。







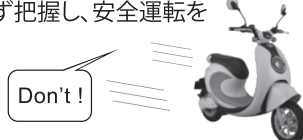


重要

本製品は品質向上のため予告なく仕様を変更する場合があります。
予めご了承ください。

安全運転のために

- 本バイクを操作しようとする前に、本マニュアルの指示を読んで従ってください。本マニュアルまたはバイクに添付されている他の資料は大切に保管してください。
- 本バイクの操作前に、本マニュアルで指定されている乗車前点検を必ず行なってください。
- バイクの改造等を行なうと、本バイクが安全に操作できなくなる場合があります。
- 本バイクを曲乗り、スピンアウト、レースや競争などに絶対に使用しないでください。

<p> バイクの始動や操作の前に乗車前点検リストを必ず読み、実行してください。(P.16参照)</p> <p>注意</p> 	<p> 本バイクに乗っている間のお客様の安全は、適切な判断を下す能力に左右されます。本バイクを安全に操作するためには、理解力、精神力、身体能力が必要です。</p> <p>警告</p>
<p> 公道で本バイクを操作する前に、必ず適切な指導を受け、混雑していない場所で十分な練習を行なってください。</p> <p>警告</p> 	<p> バイクのスピードの出し過ぎは、お客様ご自身のほか、周りの方々の死亡事故や重大な損害を引き起こすこととなります。本バイクを操作している間、天候および交通事情を必ず把握し、安全運転を行なってください。</p> <p>警告</p> 



警告

濡れている、滑りやすい、荒れている路面や傾斜路では、細心の注意を払って運転してください。コントロールを失い、傷害、死亡、財産の損傷につながる高い危険があります。



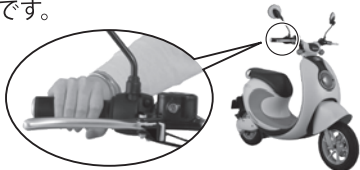
警告

曲がるときには必ず減速してください。スピードを出したまま曲がるとコントロールを失い、死亡事故等の原因になる場合があります。傾斜した路面で曲がると転倒の危険が高まります。いつでもバイクがコントロールできるようになるまで、安全な場所で曲がる練習等をしてください。



警告

バイクが異常な騒音や振動を発したら、停止し、すぐに電源を切ってバイクの損傷を確認してください。異常な騒音や振動は、部品の紛失または摩耗のサインです。



警告

本バイクをあらゆる競技やレース、スピンアウト等に絶対使用しないでください。傷害や損害をもたらす恐れがあります。



警告

アルコール、薬物、医薬品の影響下にある間は、バイクを絶対に操作しないでください。お客様自身または周りの方々に危険を及ぼします。また、上記の状態での運転は法律で禁止されています。



注意

バイク運転前にタイヤ圧力ゲージを使用してタイヤ圧力を確認してください。(P.16参照)



モーターの安全



注意

モーターは泥などが付着していない状態にしてください。



警告

モーターユニットに対する改造や変更は絶対に行なわないでください。これらの部品は工場での状態に調整されています。モーターユニットの改造は、運転者、周りの人々およびモーターそのものが危険となるおそれがあります。



警告

正しくシートに座り、両手でハンドルをしっかりと握るまでバイクを絶対にスタートしないでください。



警告

水、泥、雪、埃、砂などの環境でバイクを操作すると、操作系統に破片が入る可能性があります。アクセルの固着などによりコントロールができなくなり、死亡、傷害車体の損傷などにつながることがあります。

Check



留め金具



警告

すべてのねじ、ロックナット、ボルトがきちんと締め付けられているか確認してください。可動する部分は、絶対に締め付け過ぎないようにしてください。可動部品が動かなくなると、コントロールを失い傷害または死亡事故につながることがあります。



注意

トルクタイプのロックナットを交換する場合は、古いものと同じ種類の新しい部品を使用してください。



バッテリー充電



注意

- ・バッテリーを充電する前に、コンセントを確認してください。
- ・バッテリー充電器に適合しているかを確認してください。
- ・モーターが稼働中は、バッテリーを絶対に充電しないでください。

100V



警告

- ・必ず純正のバッテリー充電器をご使用ください。不適切な充電器は、火災や爆発を引き起こす危険があります。
- ・雨天時の屋外や水がかかる場所では充電しないでください。



ポイント

- ・バッテリーがフル充電されると、充電器の充電ランプが緑に変わります。

メンテナンス



注意

バイクを改造しないでください。



警告

0℃以下で車両を洗車したり操作したりしないでください。極端な冷寒、温暖時には故障および正常な動作ができなくなるおそれがあるので使用はお控えください。



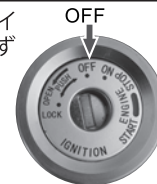
注意

本バイクの組み立て、メンテナンス、修理は安全性を確保するために、販売店にご依頼ください。



警告

車体の周辺で作業する場合は、バイクが不意に動く可能性があるので必ず電源を切ってください。



ご乗車時



- ・バイクを操作する際は、常に本マニュアルの危険に対する指示に従ってください。関連する法規を理解して遵守する責任があります。
- ・絶対に過積載をしないでください。積載可能重量は150kgです（運転者含む）。

リアブレーキを握り、車体を軽く前に押しセンタースタンドを外します。（もしくはサイドスタンドを足でけり上げて外します。）次に、片足をフロアボードにのせたままシートにまたがります。その後、メカキーで電源をON（もしくはワイヤレスキー、キーシリンダーを押して電源をON）にします。ハンドルには、操作に支障の出るおそれのある物品等は取り付けないでください。



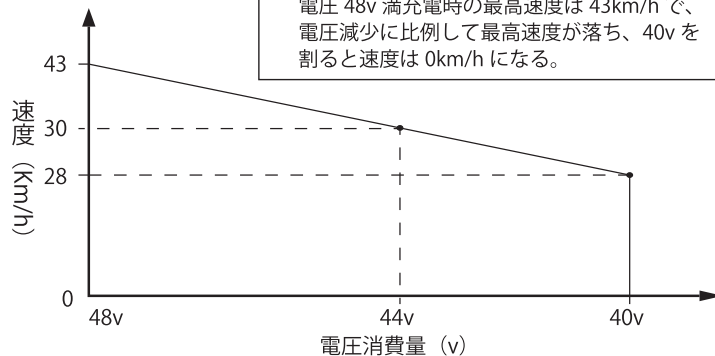
バイクに乗る際は、安全性が認証されたヘルメット、目の保護具、靴を必ず着用してください。



スタンドを出したままバイクを運転しないでください。

当社走行実験による電動バイク走行特性の紹介

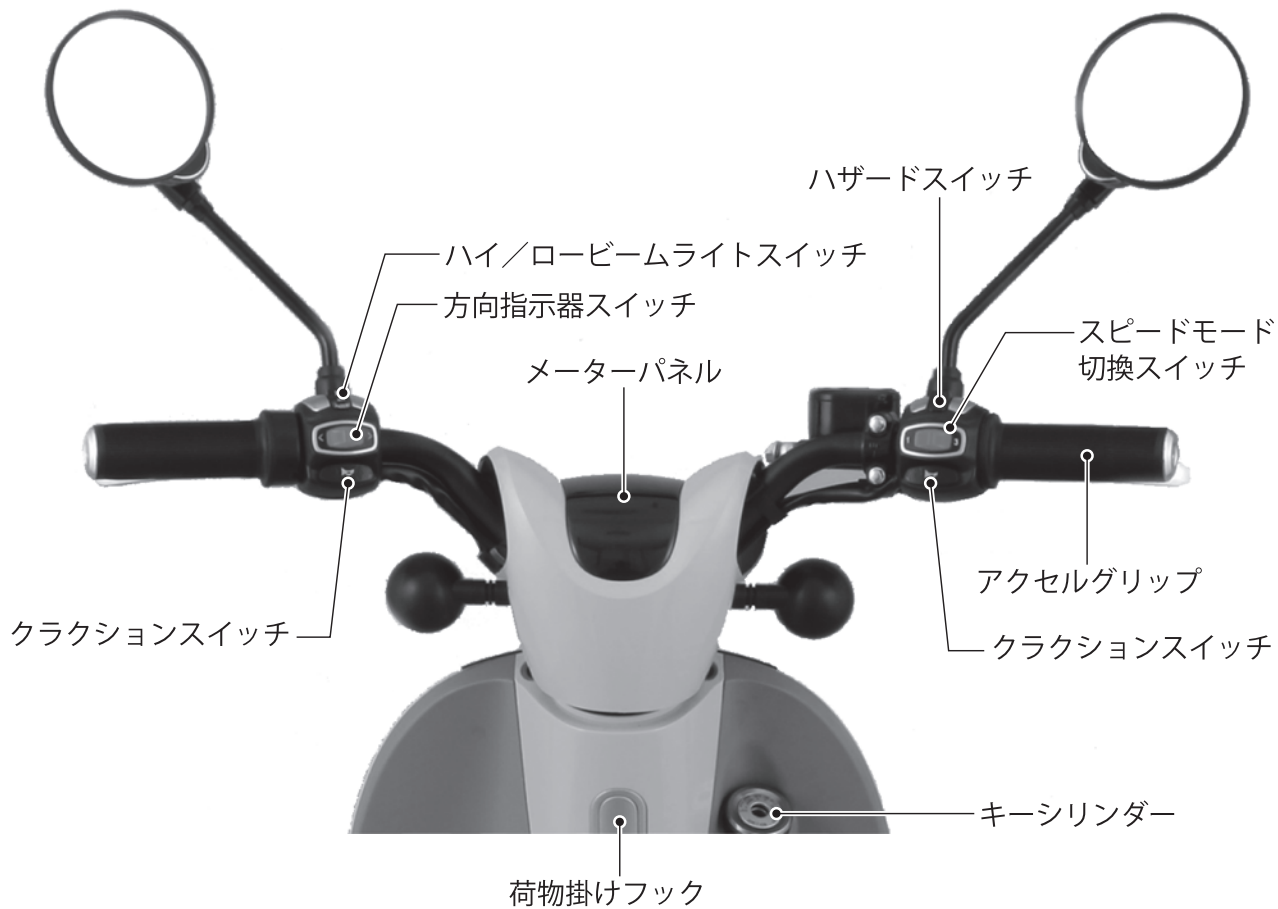
電動モーター駆動のバイクの性能は、ガソリンエンジン駆動や人力バイクとは異なります。乗車前に電動バイクがどのように機能しているか理解することは非常に重要です。



各部の取り扱いと操作

各部の名称

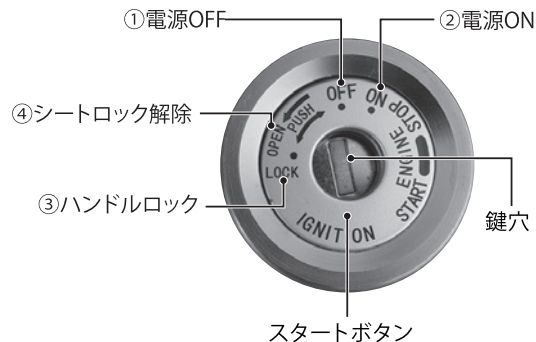




キーシリンダー

キーシリンダーには右図の4つのポジションがあります。

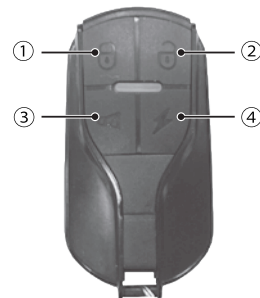
- ①**電源OFF**: モーターの電源がオフになってメカキーを抜くことができます。
- ②**電源ON**: モーターがスタンバイしメカキーは抜けません。
- ③**ハンドルロック**: ハンドルがロックされメカキーが抜けません。
※メカキーが「電源OFF」の状態時に、ハンドルを左いっぱい切り、メカキーを押しながらこの位置に回すとハンドルロックがかかります。
- ④**シートロック解除**: シートのロックが解除されます。
※この位置でスタートボタンを押すと電源をオンにできます。



ワイヤレスキー

- ①**セキュリティ警報ON**: バイク本体に触れると警報アラームが鳴り、約10秒後にタイヤロックがかかります。
- ②**セキュリティ警報解除／電源OFF／シートロック解除**:
警報アラームの設定を解除。またはバイクの電源をOFFにします。長押しでシートカバーのロックを解除します。
- ③**バイク発音／シートロック解除**:
短押し＝駐車場所が分かるようにバイクからアラーム音が発生します。
長押し＝シートカバーのロックを解除します。
- ④**電源ON**: バイクの電源をONにします。

※ワイヤレスキーの電池が切れた場合は、お客様ご自身での交換をお願いします。
(詳細は弊社のHPにて掲載しております。) <http://www.mssjapan.jp/xeam/notte/>



バイクの始動方法

次の3つの方法でバイクを始動できます。

- ①メカキーを差し込み「電源ON」の位置に回す。
- ②ワイヤレスキーの②番ボタンを1回押してから、スタートボタンを押す。
- ③ワイヤレスキーの②番ボタンを1回押してから、④番ボタンを速やかに2回連続で押す。
メーターが表示されると電源が入ったことになります。

電源をOFFにする方法

次の3つの方法で、バイクの電源を切ることができます。

- ①メカキーを「電源OFF」の位置に回す。
- ②スタートボタンを押して、バイクを始動した場合は、スタートボタンをもう1回押す。
- ③ワイヤレスキーでバイクを始動した場合は、ワイヤレスキーの②番ボタンを1回押すと電源が切れます。

新機能

自動タイヤロック機能について

盗難防止を目的としたnotte V2からの新機能です。電源OFF時に自動で後輪タイヤを固定し、アクセルを回しても動きません。ワイヤレスキーのセキュリティ警報解除ボタンを押すと解除できます。

動作説明

メカキーを抜いて
電源OFFをおこなった場合

スタートボタンを押して
電源OFFをおこなった場合

ワイヤレスキーを使用して
電源OFFをおこなった場合

約10秒後に「ピロツ」と発音・ヘッドランプが点滅し、自動で後輪タイヤをロック

解除
方法

ワイヤレスキーの「セキュリティ警報解除ボタン」を押して解除

※または主電源スイッチをOFF→ONにする。

ワイヤレスキー



セキュリティ
警報解除ボタン

ご注意ください

自動タイヤロックの解除には、ワイヤレスキーが必要です。メカキー・スタートボタンで電源OFFをおこなう場合はワイヤレスキーも同時にお持ちください。

ワイヤレスキーの電池切れまたは手元にない場合は、メカキーでシートを開き主電源スイッチ(ブレーカー)をOFFにしてONに戻すと解除できます。

主電源スイッチ
(ブレーカー)



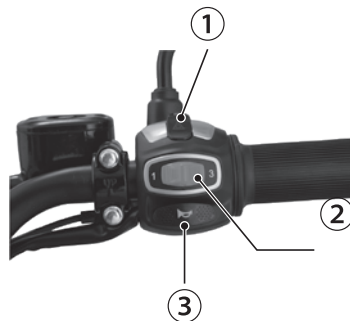
自動タイヤロック時には、バイクに触れても警報アラーム音は鳴りません。警報アラームは別途でワイヤレスキーを使用して設定が必要です。

右グリップ部スイッチ

- ①ハザード：ハザードを押すと2つの方向指示器が点滅します。
- ②スピードモード切替スイッチ：次の3つのスピードモードを選べます。

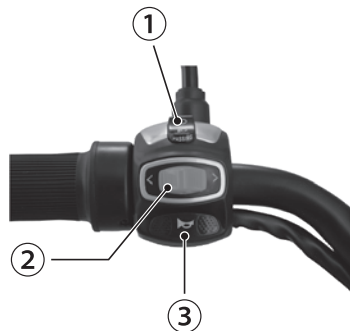
ノーマルモード(1速)	最高速度約35km/h	バッテリー消費がもっとも遅い
ハイモード(2速)	最高速度約40km/h	ゆっくりバッテリー消費
ブーストモード(3速)	最高速度約43km/h	バッテリー消費がもっとも早い

- ③クラクション：一番下のボタンを押すとクラクションが鳴ります。



左グリップ部スイッチ

- ①ハイ/ロービームライトスイッチ：ライトのビームはハイとローを切り替えることができます。
- ②方向指示器スイッチ：スイッチを左にスライドすると左の方向指示器、右にスライドすると右の方向指示器が点滅します。スイッチを中央にすると点滅はキャンセルされます。
- ③クラクション：一番下のボタンを押すとクラクションが鳴ります。



メーターパネル

- ①スピードメーター：現在の運転速度 (km/h) を表示。
- ②走行距離計：走行距離 (Km) を表示 (ODOメーター)。
- ③方向指示器：方向指示器が動作していることを表示。
- ④バッテリー残量表示：バッテリー残量レベルを表示。
- ⑤スピードモード：スピードモード (1/2/3) を表示。
1=ノーマルモード (1速)
2=ハイモード (2速)
3=ブーストモード (3速)

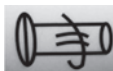


ポイント

電源をオンにすると、メーターが表示されます。

上記以外の表示 (赤表示) はすべて警告灯となります。表示が出た場合は、すみやかに販売店等で修理を依頼してください。

警告灯表示例：



など

バッテリーに関して

バッテリー充電に関する注意事項

下記の通りに取り扱わないと、バッテリーの劣化・故障をきたすおそれがありますので、必ず下記の内容をご確認ください。

1. 初回購入時、または長期間使用していない場合は、24時間完全に充電してからご使用ください。
2. 最低でも2ヶ月に1回は24時間充電すると、バッテリーの劣化を防止できます。
3. 正しい交流電圧のコンセント(100v)に接続してください。
4. バッテリーを充電する場合、充電器をバイクに接続してからコンセントに接続してください。バッテリーが完全に充電されたら、充電器をコンセントから取り外してください。充電器がコンセントに接続されている間は、充電器をバイクから取り外さないでください。
5. バッテリーがフル充電されると、充電器の背面にある充電ランプが緑色に変わります。
6. 充電器に衝撃を加えたりしないでください。充電器が破損するおそれがあります。
7. 充電器は湿気、埃、高温などから避けてください。
8. 充電器の作動中は、熱を発生します。通気性の良いところに保管し、可燃物から離してお使いください。
9. 子供の手の届かないところに保管してください。
10. ケーブル等が破損した場合は、販売店に修理を依頼してください。破損部を開けたり修理したりしないでください。そのような行為は危険な上、保証対象外になります。
11. 充電器は、電動バイクのバッテリー充電に使用するために設計、製造されています。それ以外の目的で使用しないでください。
12. リチウムバッテリーの充電は、バッテリーの特性上、使用した分をその都度充電するようにしてください。
13. 本バイクのバッテリーは急速充電には対応していません。
14. この指示に従わず誤った使用での故障については、保証対象外となります。

※バッテリーの廃棄に関しては販売店にお問合せください。

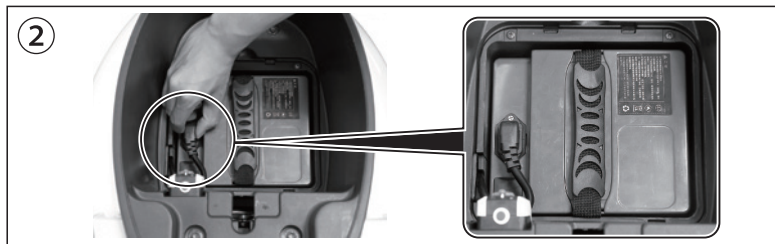
バッテリー交換

- ① バイクのシートを開け、バッテリーBOXのフタを取り外します。
- ② バッテリーに接続された充電ケーブルを抜き、バッテリーを取り出します。
- ③ 交換用のバッテリーをバッテリーBOXの中にセットします。
- ④ 充電ケーブルをバッテリーに接続します。
- ⑤ バッテリーBOXのフタを閉めた後に、バイクのシートを閉めます。



ポイント

本バイクのバッテリーは、着脱可能のタイプですので、バッテリーを取り外して充電することができます。バイク本体に装着のままでも充電が可能です。



バイクを始動する前に(乗車前の点検)

下記の項目をご確認の上、バイクにご乗車ください。

1. タイヤ

- ・両タイヤ共に中心のトレッドの溝が少なくとも1.6mmあること。
- ・両タイヤ共に規程の空気圧(250kPa)になっていること。
- ・タイヤの中心でトレッドの溝が1.6mm未満の場合、タイヤを交換する。

2. スロットル

- ・スムーズに操作できるか確認する。スロットルグリップが電源を切るために戻れるようにすること。
- ・摩滅しているケーブルまたは破損しているケーブルハウジングがないか確認する。破損している場合は、販売店等に修理を依頼する。
- ・スロットル機構に泥、破片、氷等が入っていないか確認する。汚れは掃除する。

3. 留め金具

- ・アクスルナットおよびラグナットが固定されているか確認する。
- ・留め金具が紛失していないか確認する。必要に応じて取り換える。
- ・他のすべてのファスナーが固定されているか確認する。必要に応じて締め付ける。

4. ステアリング(ハンドル)

- ・ステアリングが自由に動くようにすること。
- ・必要に応じて注油/調整する(詳細は販売店等にお問い合わせください)。

5. フレーム

曲がっている/破損している部品がないか確認する。破損している場合は、販売店等に修理を依頼する。

6. バッテリー

しっかり固定されていること、腐食がないことを確認する。必要に応じて掃除を行なう。

7. ライト

正しく作動するか確認する。必要に応じて電球を交換する(販売店等に修理依頼してください)。

バイクを降車する際に



ポイント

ゆっくりとブレーキレバーを握るとモーターが緩やかに止まります。なお、停止後、キーシリンダーをずっとONのままにしておくと、バッテリーは放電してしまいます。使用後は必ずOFFにしてください。

バイクの停止



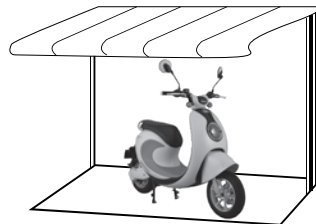
警告

濡れたり、油や砂がある路面ではブレーキ性能が低下します。こうした路面で強くブレーキをかけると、コントロールを失い、重大な事故につながる可能性があります。できるだけゆっくりと減速してください。

ブレーキをかけるときは、最初にリアブレーキをかけてバイクのコントロールを最大限に維持します。制動力の大半は、前輪で行ないます。

駐車

バイクを駐車する際は、盗難防止のために必ず鍵をロックポジションにしてください。滑らかで硬い路面に駐車し、可能な時にはセンタースタンドを使用するようにしてください。



電動バイクメンテナンスについて

お客様に長く安全に乗っていただけるように、以下の定期メンテナンスを推奨しています。

項目	メンテナンス	頻度	担当
バッテリー容量	乗車前にバッテリー残量を確認してください。	毎回	ユーザー
反射板	反射板の割れや破損等がないか確認してください。	毎日	ユーザー
タイヤ	軽質アルカリ性洗剤または水で表面を洗ってください。	毎週	ユーザー
タイヤ	空気圧を適正值にしてください(250kPa)。	毎週	ユーザー
ブレーキ	ブレーキを握ると車輪がすぐに停止することを確認してください。	毎日	ユーザー
アクスル	前輪と後輪アクスルのねじを確認して締め付けてください。	毎月	販売店
フロントフォーク	フロントフォークおよびハンドルバーのねじを締め付けてください。	毎月	販売店

トラブルシューティング

バイクに発生した問題を解決するためのガイドです。問題が解決しない場合は、販売店にご相談ください。

状態	原因	解決方法
バイクが動かない・走行できない	<ol style="list-style-type: none">1.キーシリンダーが「ON」になっていない2.メインの回路ブレーカーが落ちた3.バッテリーが弱い4.バッテリーケーブルが緩んでいるまたは外れている5.ケーブルの断線6.ブレーキの固着	<ol style="list-style-type: none">1.キーシリンダーを「ON」にする2.メインの回路ブレーカーをリセットする3.バッテリーを充電する4.バッテリーにケーブルをしっかりと接続する5.バッテリーにケーブルをしっかりと接続する6.ブレーキを解除する
運転中バイクがぐらぐらする	<ol style="list-style-type: none">1.タイヤ圧力が低い2.車輪が十分に締め付けられていない3.ステアリングのベアリングが摩耗している	<ol style="list-style-type: none">1.タイヤに空気を入れる2.車輪を締め付ける3.ベアリングを交換する
走行距離が短い	<ol style="list-style-type: none">1.たまにしか充電しない2.バッテリーの不良または消耗3.寒冷温度でバッテリー性能が下がっている4.充電器の不良または不適切な充電器によるバッテリーの故障	<ol style="list-style-type: none">1.頻繁に充電する2.販売店にご相談ください。3.バッテリーを常温にしてからフル充電する4.販売店にご相談ください。
メーターが表示されない	<ol style="list-style-type: none">1.バッテリー残量が少ない2.メーターが壊れているまたはメーターの配線が外れている3.バッテリー不良4.欠陥充電器によるメーターの故障	<ol style="list-style-type: none">1.バッテリーを充電する2.メーターを交換するまたは配線を接続する3.バッテリーを交換する4.販売店にご相談ください。
ブレーキ鳴き	<ol style="list-style-type: none">1.ブレーキパッドが汚れている2.ブレーキパッドが新しい	<ol style="list-style-type: none">1.ブレーキパッドを掃除する2.長距離走行するとブレーキ鳴きが止まる

上記以上の不具合が発生した場合は、販売店・取次店または弊社へお問い合わせください。

問い合わせ

バイクについてのお問い合わせ、ご相談は、まず取扱店にお気軽にご連絡ください。

取扱店

TEL

取扱店一覧

全国各地のバイクショップと連携することにより、お住まいの地域の最寄り店舗にてメンテナンスを受けることができます。

エリア順次拡大中

最新の情報は WEB ページをご覧ください

<https://xeam.jp/shop/>




MSSolutions

<https://www.mssjapan.jp/>

企画開発元：株式会社 MS ソリューションズ

〒812-0038 福岡市博多区祇園町 7 番 20 号 博多祇園センタープレイス 9F

 : 0120-15-8195 受付時間 11:00 ~ 19:30 (年中無休) ※年末年始は除く

FAX : 092-262-7419 **MAIL** : info_xeam@mssjapan.jp



X E A M

<https://www.xeam.jp/>

技術的な問合せ先：XEAM TECHNICAL CENTER

〒811-2405 福岡県糟屋郡篠栗町篠栗 3754-1

TEL : 092-410-0427 受付時間 9:00 ~ 18:00 (平日) ※12:00 ~ 13:00 は除く

保証書

製品保証について

保証書に記載の対象車両の保証部位に、材料上もしくは製造上の不具合等による故障が発生した場合、無償で修復させていただきます。なお、弊社の指示、承諾を得ずに改造等を行った車両については全て保証対象外とさせていただきます。

※一般的な使用用途外（レース場での使用等）についても保証対象外とさせていただきます。

保証対象部品… フレーム・フロントフォーク・スイングアーム・ホイール・リヤサスペンション・ブレーキ・ステアリング・電動機・コントローラー・走行用バッテリー・その他メーカーが定めた主要部品。

保証適用外の範囲… 外装部品・シート・消耗部品（ブレーキパッド・ブレーキシュー・タイヤ・ゴム類・油脂類等・ブレーキディスク・電球類・ヒューズ等）・その他メーカーが定めた部品

車両の譲渡について詳しくは、WEB ページをご覧ください。 <https://www.xeam.jp/>

1カ月点検について

新車登録または届け出をされてから1カ月を目安に行う点検です。この時期の点検は車両寿命に影響を与えることが多いことから、新車登録または届け出をされてから約1カ月（または1000km時）の点検を弊社提携店舗にて実施致します。直営店（WEB販売含む）にてご購入頂いた場合は無料にてお受付致します。有効期間を過ぎますと、有料となります。（有効期間：新規登録もしくは届け出をしてから約1カ月もしくは有効期限内に走行距離が1000kmを超える場合は、1000km走行時となります。）

● 1カ月の点検内容

- ・電動機の低速及び加速の状態の点検
- ・リム及びホイールディスクの損傷の点検
- ・ブレーキのきき具合の点検
- ・ブレーキロッド及びケーブル類の緩み、がた、損傷等の点検
- ・タイヤの空気圧亀裂、損傷、異状摩耗、溝の深さ
- ・ブレーキホース及びパイプの液漏れ、損傷、取り付け状況の点検

定期点検について

2007年4月1日より『道路運送車両法』の改正等により、2007年4月1日以降の新車登録車より、以下の内容での定期点検内容に変更となりました。

- ・6カ月点検の廃止
- ・走行距離加味点検とシビアコンディション点検の設定

点検の種類について

● 日常点検

法もしくは法に準じてユーザー様自身で日々の車両の状況、状態に応じてユーザー様自らが適宜行う点検です。走行前、充電前、洗車前等に行ってください。

- ・ブレーキ（前後）レバー（ペダル）の遊び、きき具合
- ・ブレーキ液の量（前）
- ・灯火装置および方向指示器
- ・低速・加速の状態
- ・タイヤの空気圧亀裂、損傷、異状摩耗、溝の深さ
- ・運行において異状が認められた箇所

● シビアコンディション点検

通常使用より過酷な状況で車両を使用した場合、部品の劣化や破損等が通常より早く進行してしまうケースがございます。それを早期に発見する為に整備士が6カ月ごとに行う点検の事をさせていただきます。シビアコンディションの目安、状況については以下の通りです。

- ・坂道や山道の走行が全走行の30%以上を占めている。またそれに伴うブレーキの使用が多い。
- ・走行距離が半年で3000km以上である。
- ・未舗装路や凸凹道の走行が全走行の30%以上を占めている。

※整備点検等でご不明な点は販売店、取次店にご相談ください

保証有効期間について

- 店舗でご購入 : 登録日から1年間または5,000km 走行時
- 当社HPでご購入 : 出荷日から1年間または5,000km 走行時
- Amazonでご購入 : 出荷日から2年間または10,000km 走行時
- 景品・特典で譲渡 : 当社卸し日から1年間または5,000km 走行時

ご購入日 年 月 日

※「景品・特典で譲渡」の場合は、卸し日を記載してください。

氏名 _____ 様 TEL _____ - _____
〒 _____
住所 _____
登録番号 _____
車名 _____ 車台番号 _____

1ヶ月点検整備記録簿 (電動車)

二輪車	該当なし	/	交換	×	締付	T
	点検	✓	修理	△	清掃	C
	分解	○	調整	A	給油	L

● 参照事項

- ※ 1 各変速モードで動作させ、うなり音等の異音の有無を確認お願い致します。
- ※ 2 ステム緩み止めナットの状態確認要。
- ※ 3 タイヤ溝深さ→1.6mm以上
- ※ 4 タイヤ規定空気圧→250kpa

電動機点検

■ 本体 _____

電動機の作動状態・異音の有無※1 低速・加速の状態

ステアリング装置点検

■ ハンドル _____

操作具合

■ フロントフォーク _____

- 損傷
- ステアリングステムの取付状態※2
- ステアリングステムの軸受け部のがた

電気・保安装置点検

■ 走行用バッテリー _____

本体の損傷・ターミナル部の緩み損傷の有無

■ スイッチ類 _____

- 灯火装置・方向指示器の作用
- ホーン・ハンドルロック装置の作用
- 計器の作用

■ その他必要となった点検整備の内容及び主な交換部品/記事等

ブレーキ点検

■ ブレーキペダル及びブレーキレバー _____

遊び ブレーキのきき具合

■ ロッド及びケーブル類 _____

緩み・がた・損傷

■ ホース及びパイプ _____

漏れ・損傷・取付状態

■ リザーバタンク (フロントブレーキ) _____

ブレーキ液の量

足回り点検

■ ホイール _____

タイヤの空気圧※3 タイヤの亀裂・損傷の有無

タイヤの溝の深さ・異常な磨耗※4

ホイールのボルト・ナットの緩み

■ ショックアブソーバー _____

損傷・オイル漏れの有無

その他

外観樹脂パーツの損傷の有無

車両番号
初度登録年又は初年度検査年
車台番号
点検時の総走行距離
km
点検年月日
年 月 日
整備完了日
年 月 日
タイヤの溝の深さ
F mm R mm
ブレーキパッド残量
F mm R mm
点検又は整備を実施した者の氏名
印
住所
T

定期点検整備記録簿 (電動車)

二 輪 車	該当なし	/	交換	×	締付	T
	点検	✓	修理	△	清掃	C
	分解	○	調整	A	給油	L

● 6ヵ月点検整備…… +

● 12ヵ月点検整備…… +

※納車時点検は6ヵ月点検に準ずる

電動機点検

■ 本体 _____

電動機の作動状態・異音の有無 低速・加速の状態

ステアリング装置点検

■ ハンドル _____

操作具合

■ フロントフォーク _____

損傷 ステアリングシステムの取付状態

ステアリングシステムの軸受け部のがた

足回り点検

■ ホイール _____

タイヤの空気圧 タイヤの亀裂・損傷の有無

タイヤの溝の深さ・異常な磨耗

ホイールのボルト・ナットの緩み

フロントホイールベアリングのがた

リヤホイールベアリングのがた

■ サスペンションアーム _____ ■ ショックアブソーバー _____

連結部のがた・アームの損傷 損傷・オイル漏れの有無

その他

フレームの緩み・損傷 シャシ各部の給油脂状態

■ その他必要となった点検整備の内容及び主な交換部品 / 記事等

ブレーキ点検

■ ブレーキペダル及びブレーキレバー _____

遊び ブレーキのきき具合

■ ロッド及びケーブル類 _____

緩み・がた・損傷

■ ホース及びパイプ _____ ■ リザーバタンク _____

漏れ・損傷・取付状態 ブレーキ液の量

■ マスタシリンダ・ホイールシリンダ及びディスクキャリパ _____

機能・磨耗・損傷

■ ブレーキドラム及びブレーキシュー _____

ドラムとライニングのすき間

シューの摺動部分・ライニングの磨耗

電気・保安装置点検

■ バッテリー _____

本体の損傷・ターミナル部の緩み損傷の有無

■ 電気配線 _____

接続部の緩み損傷

■ スイッチ類 _____

灯火装置・方向指示器の作用

ホーン・ハンドルロック装置の作用 計器の作用

車両番号

初度登録年又は初年度検査年

車台番号

点検時の総走行距離

km

点検年月日

年 月 日

整備完了日

年 月 日

タイヤの溝の深さ

F mm R mm

ブレーキパッド残量

F mm R mm

点検又は整備を実施した者の氏名

印

住所

〒

定期点検整備記録簿 (電動車)

二輪車	該当なし	/	交換	×	締付	T
	点検	✓	修理	△	清掃	C
	分解	○	調整	A	給油	L

● 6ヵ月点検整備…… +

● 12ヵ月点検整備…… +

※納車時点検は6ヵ月点検に準ずる

電動機点検

■ 本体 _____

電動機の作動状態・異音の有無 低速・加速の状態

ステアリング装置点検

■ ハンドル _____

操作具合

■ フロントフォーク _____

損傷 ステアリングシステムの取付状態
 ステアリングシステムの軸受け部のがた

足回り点検

■ ホイール _____

タイヤの空気圧 タイヤの亀裂・損傷の有無
 タイヤの溝の深さ・異常な磨耗
 ホイールのボルト・ナットの緩み
 フロントホイールベアリングのがた
 リヤホイールベアリングのがた

■ サスペンションアーム _____ ■ ショックアブソーバー _____

連結部のがた・アームの損傷 損傷・オイル漏れの有無

その他

フレームの緩み・損傷 シヤシ各部の給油脂状態

■ その他必要となった点検整備の内容及び主な交換部品 / 記事等

ブレーキ点検

■ ブレーキペダル及びブレーキレバー _____

遊び ブレーキのきき具合

■ ロッド及びケーブル類 _____

緩み・がた・損傷

■ ホース及びパイプ _____ ■ リザーバタンク _____

漏れ・損傷・取付状態 ブレーキ液の量

■ マスタシリンダ・ホイールシリンダ及びディスクキャリパ _____

機能・磨耗・損傷

■ ブレーキドラム及びブレーキシュー _____

ドラムとライニングのすき間
 シューの摺動部分・ライニングの磨耗

電気・保安装置点検

■ バッテリー _____

本体の損傷・ターミナル部の緩み損傷の有無

■ 電気配線 _____

接続部の緩み損傷

■ スイッチ類 _____

灯火装置・方向指示器の作用
 ホーン・ハンドルロック装置の作用 計器の作用

車両番号

初度登録年又は初年度検査年

車台番号

点検時の総走行距離

km

点検年月日

年 月 日

整備完了日

年 月 日

タイヤの溝の深さ

F mm R mm

ブレーキパッド残量

F mm R mm

点検又は整備を実施した者の氏名

印

住所

〒

定期点検整備記録簿 (電動車)

二 輪 車	該当なし	/	交換	×	締付	T
	点検	✓	修理	△	清掃	C
	分解	○	調整	A	給油	L

● 6 ヶ月点検整備…… +

● 12 ヶ月点検整備…… +

※納車時点検は6 ヶ月点検に準ずる

電動機点検

■ 本体 _____

電動機の作動状態・異音の有無 低速・加速の状態

ステアリング装置点検

■ ハンドル _____

操作具合

■ フロントフォーク _____

損傷 ステアリングシステムの取付状態

ステアリングシステムの軸受け部のがた

足回り点検

■ ホイール _____

タイヤの空気圧 タイヤの亀裂・損傷の有無

タイヤの溝の深さ・異常な磨耗

ホイールのボルト・ナットの緩み

フロントホイールベアリングのがた

リヤホイールベアリングのがた

■ サスペンションアーム _____ ■ ショックアブソーバー _____

連結部のがた・アームの損傷 損傷・オイル漏れの有無

その他

フレームの緩み・損傷 シヤシ各部の給油脂状態

■ その他必要となった点検整備の内容及び主な交換部品 / 記事等

ブレーキ点検

■ ブレーキペダル及びブレーキレバー _____

遊び ブレーキのきき具合

■ ロッド及びケーブル類 _____

緩み・がた・損傷

■ ホース及びパイプ _____ ■ リザーバタンク _____

漏れ・損傷・取付状態 ブレーキ液の量

■ マスタシリンダ・ホイールシリンダ及びディスクキャリパ _____

機能・磨耗・損傷

■ ブレーキドラム及びブレーキシュー _____

ドラムとライニングのすき間

シューの摺動部分・ライニングの磨耗

電気・保安装置点検

■ バッテリー _____

本体の損傷・ターミナル部の緩み損傷の有無

■ 電気配線 _____

接続部の緩み損傷

■ スイッチ類 _____

灯火装置・方向指示器の作用

ホーン・ハンドルロック装置の作用 計器の作用

車両番号

初度登録年又は初年度検査年

車台番号

点検時の総走行距離

km

点検年月日

年 月 日

整備完了日

年 月 日

タイヤの溝の深さ

F mm R mm

ブレーキパッド残量

F mm R mm

点検又は整備を実施した者の氏名

印

住所

〒

定期点検整備記録簿 (電動車)

二輪車	該当なし	/	交換	×	締付	T
	点検	✓	修理	△	清掃	C
	分解	○	調整	A	給油	L

電動機点検

■ 本体 _____

電動機の作動状態・異音の有無 低速・加速の状態

ステアリング装置点検

■ ハンドル _____

操作具合

■ フロントフォーク _____

損傷 ステアリングステムの取付状態
 ステアリングステムの軸受け部のがた

足回り点検

■ ホイール _____

タイヤの空気圧 タイヤの亀裂・損傷の有無
 タイヤの溝の深さ・異常な磨耗
 ホイールのボルト・ナットの緩み
 フロントホイールベアリングのがた
 リヤホイールベアリングのがた

■ サスペンションアーム _____ ■ ショックアブソーバー _____

連結部のがた・アームの損傷 損傷・オイル漏れの有無

その他

フレームの緩み・損傷 シャシ各部の給油脂状態

■ その他必要となった点検整備の内容及び主な交換部品 / 記事等

● 6ヵ月点検整備……

● 12ヵ月点検整備…… +

※納車時点検は6ヵ月点検に準ずる

ブレーキ点検

■ ブレーキペダル及びブレーキレバー _____

遊び ブレーキのきき具合

■ ロッド及びケーブル類 _____

緩み・がた・損傷

■ ホース及びパイプ _____ ■ リザーバタンク _____

漏れ・損傷・取付状態 ブレーキ液の量

■ マスタシリンダ・ホイールシリンダ及びディスクキャリパ _____

機能・磨耗・損傷

■ ブレーキドラム及びブレーキシュー _____

ドラムとライニングのすき間
 シューの摺動部分・ライニングの磨耗

電気・保安装置点検

■ バッテリー _____

本体の損傷・ターミナル部の緩み損傷の有無

■ 電気配線 _____

接続部の緩み損傷

■ スイッチ類 _____

灯火装置・方向指示器の作用
 ホーン・ハンドルロック装置の作用 計器の作用

車両番号

初度登録年又は初年度検査年

車台番号

点検時の総走行距離

km

点検年月日

年 月 日

整備完了日

年 月 日

タイヤの溝の深さ

F mm R mm

ブレーキパッド残量

F mm R mm

点検又は整備を実施した者の氏名

印

住所

〒

定期点検整備記録簿 (電動車)

二輪車	該当なし	/	交換	×	締付	T
	点検	✓	修理	△	清掃	C
	分解	○	調整	A	給油	L

電動機点検

■ 本体 _____

電動機の作動状態・異音の有無 低速・加速の状態

ステアリング装置点検

■ ハンドル _____

操作具合

■ フロントフォーク _____

損傷 ステアリングシステムの取付状態

ステアリングシステムの軸受け部のがた

足回り点検

■ ホイール _____

タイヤの空気圧 タイヤの亀裂・損傷の有無

タイヤの溝の深さ・異常な磨耗

ホイールのボルト・ナットの緩み

フロントホイールベアリングのがた

リヤホイールベアリングのがた

■ サスペンションアーム _____ ■ ショックアブソーバー _____

連結部のがた・アームの損傷 損傷・オイル漏れの有無

その他

フレームの緩み・損傷 シャシ各部の給油脂状態

■ その他必要となった点検整備の内容及び主な交換部品 / 記事等

● 6ヵ月点検整備……

● 12ヵ月点検整備…… +

※納車時点検は6ヵ月点検に準ずる

ブレーキ点検

■ ブレーキペダル及びブレーキレバー _____

遊び ブレーキのきき具合

■ ロッド及びケーブル類 _____

緩み・がた・損傷

■ ホース及びパイプ _____ ■ リザーバタンク _____

漏れ・損傷・取付状態 ブレーキ液の量

■ マスタシリンダ・ホイールシリンダ及びディスクキャリパ _____

機能・磨耗・損傷

■ ブレーキドラム及びブレーキシュー _____

ドラムとライニングのすき間

シューの摺動部分・ライニングの磨耗

電気・保安装置点検

■ バッテリー _____

本体の損傷・ターミナル部の緩み損傷の有無

■ 電気配線 _____

接続部の緩み損傷

■ スイッチ類 _____

灯火装置・方向指示器の作用

ホーン・ハンドルロック装置の作用 計器の作用

車両番号

初度登録年又は初年度検査年

車台番号

点検時の総走行距離

km

点検年月日

年 月 日

整備完了日

年 月 日

タイヤの溝の深さ

F mm R mm

ブレーキパッド残量

F mm R mm

点検又は整備を実施した者の氏名

印

住所

〒

定期点検整備記録簿 (電動車)

二輪車	該当なし	/	交換	×	締付	T
	点検	✓	修理	△	清掃	C
	分解	○	調整	A	給油	L

電動機点検

■ 本体 _____

電動機の作動状態・異音の有無 低速・加速の状態

ステアリング装置点検

■ ハンドル _____

操作具合

■ フロントフォーク _____

損傷 ステアリングステムの取付状態

ステアリングステムの軸受け部のがた

足回り点検

■ ホイール _____

タイヤの空気圧 タイヤの亀裂・損傷の有無

タイヤの溝の深さ・異常な磨耗

ホイールのボルト・ナットの緩み

フロントホイールベアリングのがた

リヤホイールベアリングのがた

■ サスペンションアーム _____ ■ ショックアブソーバー _____

連結部のがた・アームの損傷 損傷・オイル漏れの有無

その他

フレームの緩み・損傷 シャシ各部の給油脂状態

■ その他必要となった点検整備の内容及び主な交換部品 / 記事等

● 6ヵ月点検整備……

● 12ヵ月点検整備…… +

※納車時点検は6ヵ月点検に準ずる

ブレーキ点検

■ ブレーキペダル及びブレーキレバー _____

遊び ブレーキのきき具合

■ ロッド及びケーブル類 _____

緩み・がた・損傷

■ ホース及びパイプ _____ ■ リザーバタンク _____

漏れ・損傷・取付状態 ブレーキ液の量

■ マスタシリンダ・ホイールシリンダ及びディスクキャリパ _____

機能・磨耗・損傷

■ ブレーキドラム及びブレーキシュー _____

ドラムとライニングのすき間

シューの摺動部分・ライニングの磨耗

電気・保安装置点検

■ バッテリー _____

本体の損傷・ターミナル部の緩み損傷の有無

■ 電気配線 _____

接続部の緩み損傷

■ スイッチ類 _____

灯火装置・方向指示器の作用

ホーン・ハンドルロック装置の作用 計器の作用

車両番号

初度登録年又は初年度検査年

車台番号

点検時の総走行距離

km

点検年月日

年 月 日

整備完了日

年 月 日

タイヤの溝の深さ

F mm R mm

ブレーキパッド残量

F mm R mm

点検又は整備を実施した者の氏名

印

住所

〒

定期点検整備記録簿 (電動車)

二 輪 車	該当なし	/	交換	×	締付	T
	点検	✓	修理	△	清掃	C
	分解	○	調整	A	給油	L

● 6ヵ月点検整備…… +

● 12ヵ月点検整備…… +

※納車時点検は6ヵ月点検に準ずる

電動機点検

■ 本体 _____

電動機の作動状態・異音の有無 低速・加速の状態

ステアリング装置点検

■ ハンドル _____

操作具合

■ フロントフォーク _____

損傷 ステアリングシステムの取付状態
 ステアリングシステムの軸受け部のがた

足回り点検

■ ホイール _____

タイヤの空気圧 タイヤの亀裂・損傷の有無
 タイヤの溝の深さ・異常な磨耗
 ホイールのボルト・ナットの緩み
 フロントホイールベアリングのがた
 リヤホイールベアリングのがた

■ サスペンションアーム _____ ■ ショックアブソーバー _____

連結部のがた・アームの損傷 損傷・オイル漏れの有無

その他

フレームの緩み・損傷 シヤシ各部の給油脂状態

■ その他必要となった点検整備の内容及び主な交換部品 / 記事等

ブレーキ点検

■ ブレーキペダル及びブレーキレバー _____

遊び ブレーキのきき具合

■ ロッド及びケーブル類 _____

緩み・がた・損傷

■ ホース及びパイプ _____ ■ リザーバタンク _____

漏れ・損傷・取付状態 ブレーキ液の量

■ マスタシリンダ・ホイールシリンダ及びディスクキャリパ _____

機能・磨耗・損傷

■ ブレーキドラム及びブレーキシュー _____

ドラムとライニングのすき間
 シューの摺動部分・ライニングの磨耗

電気・保安装置点検

■ バッテリー _____

本体の損傷・ターミナル部の緩み損傷の有無

■ 電気配線 _____

接続部の緩み損傷

■ スイッチ類 _____

灯火装置・方向指示器の作用
 ホーン・ハンドルロック装置の作用 計器の作用

車両番号

初度登録年又は初年度検査年

車台番号

点検時の総走行距離

km

点検年月日

年 月 日

整備完了日

年 月 日

タイヤの溝の深さ

F mm R mm

ブレーキパッド残量

F mm R mm

点検又は整備を実施した者の氏名

印

住所

〒



X E Λ M